



今村 定一

一般質問

支援学級の現状と
新年度の取り組みについて

質問
支援学級に在籍している児童が不登校になった事実について、学校で何が起きたのか、学校の対応と、担当課の事実確認と対応について伺う。

教育長職務代理者答弁
支援学級に通う子供たちは、当然ながらデリケートな子供が多く、環境の変化、特に人的環境の変化等に敏感に反応する子供が非常に多く、今回のケースもまさにそれが主だった要因であります。担任教諭の産休育休に伴う代替教諭が急な産休に入るといった状況で、重なる変化が子供にとって必要以上の激しい変化を起こしてしまつたと判断しています。一日も早く自力で通学できるよう、児童の心のケアも含め相談員を介して対応を進めています。

質問
教育委員会また教育課にこのような場合に対処するマニュアルが在ってしかり、コーディネーター、カウンセラーといった活用を持って早期に修復をすることも大切な処置ではないか。

教育長職務代理者答弁
形式的に決まり切つた形の対応は特別決めてありませんが、必要とあれば外部カウンセラー等の要請もできることは承知している。学校内で起きたトラブル等は学校という組織内で対応をするということとです。今回の事例については第三者（他校小校長）を経て中間的立場で学校と保護者に助言しながらお互いの信頼関係を深めるよう対応していただいている。学校の枠を超えて問題に対応したことは今までには無かつたことであり見守っていききたい。

質問
以前にも同じ質問をした経緯がありますが先生と児童のクッション的役割が出来るのが介助員である。そのためにはそれなりの知識と技術を持たなければなりません。その後押しを町が公費負担をしてもするべきと思います。希望のある先生方にも同様と考えるが。

教育長職務代理者答弁
個々の努力と資格の問題であり、これまでも事例はななく対応は難しいかと考えます。

観光と農業の連携の構築は
質問
「農業と観光、宿泊産業との連携を図って、夏場観光の底上げをすることが今後の町の発展のために重要であり必要なこと」と話しています。まさに今こそスキー観光の低迷

を癒すのは農業を資源とした観光施策であります。町長が考えている地消地産の施策、国県も力を入れていっているグリーンツーリズムの取り組みと夏季観光の対応について伺う。

町長答弁
地消地産運動の一步とした新米キャンペーンも好評3年目であります。近日、生産者ホテル旅館・町で反省会を開催したり良い方向が検討されると期待をしています。南魚沼地域にはすばらしい食材が沢山あることから、農業者・観光関係者・行政等で地消地産運動に発展させていきたいと考え、ホテル旅館経営者・料理人から生産現場を見てもらい山菜の特産物化への取り組みも実施してまいります。

グリーンツーリズムにおいては現在産業振興班が窓口になって進めております。歴史は古く、とうもろこしや芋掘り列車が運行された時もあったと聞いています。先駆者の取り組みが、現在の各種教育体験プログラムとして生かされています。町でも専用の冊子を作成しネットにおける紹介と共に広報に努めていく考えであります。今後具体的に動ける組織作りを考えていきます。



湯沢小学校